

柏崎体育

発行所 柏崎市役所
発行編集人 月橋 合
印刷所 柏崎印刷株式会社
定価 一部 15円
(毎月1回 10日発行)

国体特集号

下図市内競技施設位置図より抜萃 A 柏高球場 B 市民球場 C 一中球場（未）
D 柏工球場 E 柏商球場 G 陸上競技場 J 市営プール（未）
◎半径三百米以内に五球場が点在する ◎柏崎、比角の両国鉄駅より徒歩十五分

昭和三十九年度に開催を予定される第十九回国民体育大会は新潟県と決定した。我々は国体誘致については若干の意見がないではないではなかつた。しかし一度本県にこれが開催と決定した以上、出来得る限りの努力をして立派にその責を果したい気持であることは、かの世界オリンピックを日本で開催する心裡と全く同一である。願わくば新潟県の総力をこれに結集され、国民体育大会の名に恥じない立派なる大会として終始したいものである。

ある。もとより数年先であることと、オリンピックもあることであるから、新種の追加も考えられるが、それはそれとして、現行種目で検討しても、容易ならぬ大会であることに気がつくのである。

およそこの種の大会の会場決定には、誰も考えるところが三つある。即ち交通の便はどうか、会場になるコートやグラウンドの数はどうか、選手の宿舎はどうかの三点である。所が誰もが考えない事が二つある。即ち、参加選手は四七都道府県の単位であることが、練習場を非常に多く必要となることを失念するのである。陸上競技を開催するのも、その練習場就中投擲練習は、二〇〇メートルのサブトックをおいて、ここで練習してくれとは言えない。非常に多くの練習場が、大会場となる場所の近くにないものは、会場の指定を受ける資格がないのである。この点は、専門家と称するものさえ々々にして、ウッカリする所であるから、まして専門でない人於ては、大会場となるコートやグラウンドばかり見て、重大な練習場の規模や数や交通状況を忘れ去ってしまうのである。次に役員である。大会を運営するためには、中央や全国から

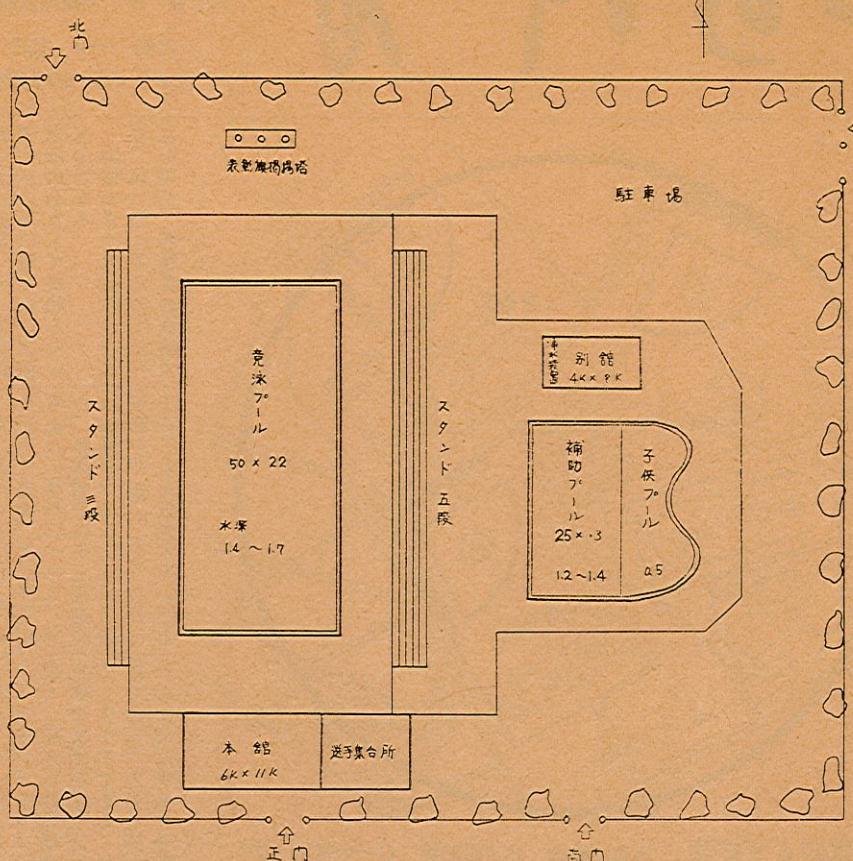
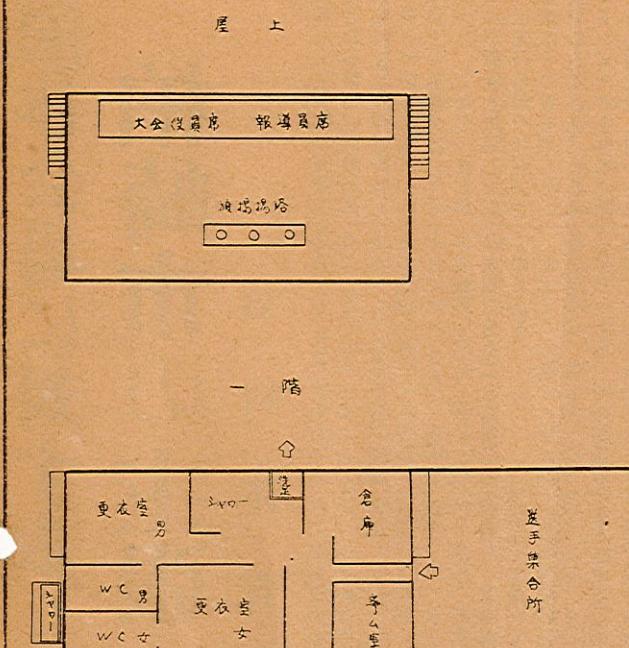
柏崎市の主張

千数百人と称する県下青大会を開催しても、民家料亭等を解放する必要がなく、旅館にお余力を持てている程である。会場においては、五〇米の長水路と長岡の二市しかなく、規の大大会はこゝよりはか催出来ない有様である。お市は議会の承認も得て建設計画に基き、新場所に更に市営ブールを設することに決定している。このブールは、収容人四一五、〇〇〇人程度のタンドを併設する予定である。

柏崎市営公認総合プール

施設配置図

本館平面図



季、夏季とにわかれている。ぜひ柏崎へといふのが米山。水泳連盟の目標所だ。もちろん海の柏崎としては夏季大会の中の水球競技を競泳、飛び込みの種目の欲し。

いところだが、これは「すでに一つの構想として、あるいは既成の事実として長岡市に於て開催される目途がついてきている」と見る現状である。我々はここに長岡市開催分の競泳、飛び込み競技から分離した水球競技の中でも、中心競技水泳全競技の開催地を、郷土、柏崎市に求めらるべきである」として、米山水泳連盟は見をのべて、その開催地について、米山水泳連盟は運営するものであるが、とくに柏崎市民としてこれが開催競技の一部を誇致することによって、そこにもたらされるであろうはずの市民のエネルギーの結集と、体育施設の画期的な前進といふ認識と決意とを新たにす

るものであるが、とくに柏

崎市に立ち、全市民的な決意を立て、目的的達成にむかって一步を進めたいと思うものである」と、その熱意を示している。

その意見の一部を開陳す

れば、全水泳競技の中から

水泳競技を分離して、その

開催地を柏崎市に求める理

由として、第十九回国体夏季大会の主競技である競泳ならびに

飛込み競技は、前述通り

長岡市開催の構想で準備は

進められている。水泳全競

技中、とくにゲーム運営の中

間を要する水泳を、同県内、他地区に分離するとい

う実例は、従来の大会に多

く見られることがあつた

し、日本水泳連盟もまた、

そのことをすすめているく

らいである。よせん夏季大会日程中

に、競泳、飛び込みを使用され

る一つの主競技もまた、

日本水泳連盟もまた、

そのことをすすめているく

らいである。よせん夏季大会日程中

に、競泳、飛び込みを使用され

る一つの主競技もまた、